

本取組の自走・継続に向けて

1. 本取組の自走化

- ・2次交通に係る各種データ、観光情報に係る各種データが情報運用され続け、利用者（観光客）にそのデータが様々なサービスを通じて届き続ける状態が継続されること

2. 議題

①取組の運営方法について

- ・本取組（補助事業）は、次年度以降、民間による自走が原則。
- ・補助事業者の現時点の基本的な自走・継続にあたっての考え方は以下のとおり。

- ・ITを活用した効率的なデータ更新体制の整備（システム構築、コミュニティづくり）
- ・オープンデータの提供元、利用先双方にメリットを感じていただける活動を通じて、賛同者からの協賛金やラボの会費収入で最低限のインフラとサポートは提供
- ・データ作成や利活用において継続提供していくにあたり課題となる部分は新しい財源を関係者と検討

- ・一方で、昨年度の委員会での意見でもあったとおり、本取組自体がビジネスに直結する類の内容ではない（基盤を維持する活動）。
- ・上記を踏まえた上で、本取組について原則に従い民間（補助事業者）の自走を前提として引き続き検討を進めてよいか、等について意見をいただきたい。
例：このような採算確保方法が考えられる、何らかの公的な支援が必要ではないか 等
- ・また、委員の皆様ほか県内外関係者で取組の自走・継続を（費用面に限らず）応援できる内容があれば、意見をいただきたい。

②オープンデータを活用した取組や沖縄観光2次交通の利便性向上に向けた新たな取組について

- ・今年度の取組予定は、これまでの説明のとおりとなり、順調に進めば2次交通、観光情報に係る各種データの情報運用基盤が整うことになる見込みである。
- ・これらのデータは民間事業者や個人等による利用が見込まれ、沖縄観光2次交通の利便性向上に資する様々なサービスが開発されることが期待される。
- ・次年度以降を見据えた際に、本取組（オープンデータ）を活用した新たな取組や、オープンデータの直接的な活用に係わらず沖縄観光2次交通の課題解消、利便性向上に資する新たな取組・施策として必要な内容等に関して、意見をいただきたい。

例：公共交通と観光施設がセットになった周遊パス

空港でのレンタカー利用の分散化を図るための移動手段の多様化や拠点形成 等